

ニーハセ
（日本の小説）

2025年7月

『ぼくのシェフ』

長谷川　まりる　作　　（くもん出版）

西村　ツチカ　絵

有名シェフの息子シャールは、慈善団体のスープ配りの場で、貧民街で育ったアズレと出会います。シャールは天才的な味覚を持つアズレに料理を教えますが、アズレの母親に拒否され会えなくなります。やがて食べ物に「死のにおい」を感じる奇病が流行し、この病気で父を亡くしたシャールは店を継ぎますが、料理人が足りず、もう一度アズレに会いに行きます。

シャールとアズレが、料理を通して、境遇や価値観の違いなどを抱えながらも成長していく物語です。それぞれ違った悩みを持った二人が、別れたり交わったりしながら、最後にどこを目指すのかに注目です。



594－25
（手芸）

2025年2月

『ある手芸中毒者の告白
ひそかな愉(たの)しみと不安　縫い欲にまみれたその日常』

（誠文堂新光社）

グレゴリ青山　作

自称「手芸中毒者」であり、服や布小物を手作りする著者が、自身の日常やよろこびをユーモラスに描いています。また、手芸にのめり込むにつれ、作ること以外にも興味が広がり、縫製品の大量生産・大量消費問題について調べたり、太平洋戦争時の手仕事による服や食器の展覧会を訪れたりします。

仕事中のはずなのに、いつの間にか気がそれて趣味の手芸に没頭している描写は、共感しつつも笑えます。自らの手でものづくりをすることが生きる尊厳に関わる、という気づきに胸を打たれるエッセイ漫画です。

★「読みたいな」と思った本の予約・問い合わせは、下の図書館までお願いします。

中央図書館	☎072－627－4129	畑田町1番51号
おにクル ぶっくぱーく	☎072－622－2476	駅前三丁目9番45号　おにクル内
水尾図書館	☎072－637－4416	水尾三丁目3番18号
庄栄図書館	☎072－620－1171	庄二丁目26番12号
穂積図書館	☎072－620－1056	松ヶ本町8番30号　イオンモール茨木内

編集・発行：茨木市立図書館　　発行日：令和8年（2026年）10月

＊本の表紙は出版社の許諾を得て掲載しています。

VEGETABLE OIL INK
この印刷物は、9,600部作成し1部あたりの単価は11.92円です。

令和8年（2026年）　秋・冬号

次なる茨木へ。
SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
茨木市は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。

おもしろい本みつけた！

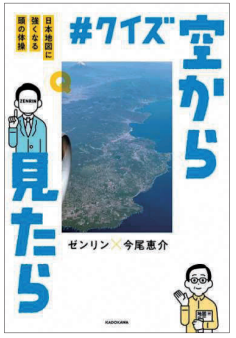
《中学生・高校生》



1年の間に図書館に入った本を中心に、
はばひろくおもしろい本を紹介します。

★ホームページにものっています。
気になる本をみつけたら、
さっそくさがしてみよう！

いばらきしりつとしょかん
茨木市立図書館
おすすめ本(ぼん)のページ



291－25
（日本地理）

2025年9月

『＃クイズ空から見たら　日本地図に強くなる頭の体操』

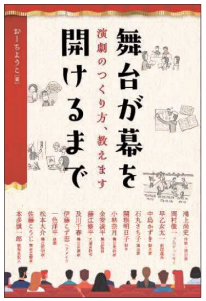
ゼンリン　作　　（KADOKAWA）

今尾　恵介　作

飛行機の窓から地上を見下ろして、そこがどこかピンときますか？

この本は航空写真を見て、それが日本のどこかを考えるクイズ本です。複雑な海岸線や、個性的な街並み、お城や湖など、地形の特徴から、その場所を推理してください。クイズのヒントや、答えのページの地図と解説も、楽しく読めます。地図や旅行が好きな人に、おすすめしたい1冊です。けれど、簡単に閃(ひらめ)くのは初級までで、中級や上級はなかなか手強く、土地勘のある人でなければ分からないかもしれません。全部分かった人は日本地理マスターです。ぜひ挑戦してみてください。

茨木市立図書館



771－25
（演劇）

2025年3月

『舞台が幕を開けるまで　演劇のつくり方、教えます』

おーち　ようこ　作　　（大修館書店）

演劇にたずさわる様々な人へのインタビューにより、舞台がどのようにつくられるかを知ることができる1冊です。公演初日を迎えるまでには、公演の企画から脚本や演出の決定、宣伝、チケットの販売、演出計画の実現、稽古といった、数多くの段階を踏みます。舞台が幕を開けるまでの流れの中で、どんな人たちがどう関わり、それぞれの仕事がどう組み合わされて「演劇」ができあがるのかが、よくわかります。

また、インタビューでは、どうやってその仕事にたどりついたのかや、仕事で大切にしていることなども紹介されています。



Fージツ
（小説）

2025年9月

『マッドのイカれた青春』

実石　沙枝子　作　　（祥伝社）

名前の頭文字をとって、MAD（マッド）のあだ名で知られている絶世の美少女、槙島朱里（まきしまあかり）ダイアナは、高校の入学式で、不細工だといじめられないように占いキャラを演じている馬淵季子（まぶちきこ）と出会います。同じように容姿でのけ者にされていた二人は意気投合し、ルッキズムにふりまわされる嵐のような青春が始まります。

各章ごとに違う人物の視点の物語になっているので、それぞれの心の内も知ることができます。卒業式の答辞で季子が行う告白は、読む人の心をゆさぶります。



セーキム
（外国の小説）

2024年11月

『妖怪島のレストラン　1　迷いこんだ少女』

キム　ミンジョン　作　　（評論社）

山岸　由佳　訳

黒ネコを追い妖怪島へと迷い込んだシアは、妖怪島の権力者・ヘドンに病気の治療薬として心臓を奪われそうになります。シアの命がけの交渉の結果、「1ヶ月間ヘドンの元で働きながら、人間の心臓に代わる治療法を探す」という契約を結ぶことで難を逃れました。魔女ヤコブの地下室に身を寄せ、頭から角が生えたジュードやドラゴンのヒーロー、木の枝葉のような姿をした庭師らと出会い、治療法探しに奮闘します。

美しい情景描写のなかで出会う個性豊かな妖怪たちとの交流と、命をかけた危うい駆け引きに魅了される、3部作の幕開けです。



F－サカ
（小説）

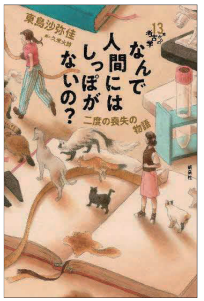
2025年4月

『あんずとぞんび』

坂城（さかき）　良樹　作　　（ポプラ社）

「ぞんび」と聞いて尻込みしている人は、その予想を裏切られるでしょう。この世界ではゾンビが差別される側として書かれていて、血の描写は出てきません。差別以外にもこの本には、いじめや格差など、現代社会が抱える闇が描かれています。そんな社会の中で、小学生のあんずは親の離婚により引っ越し、その先で苦労しながらも成長していきます。

いろいろな人や物事と出会ったあんずが、最後に「言葉の力を信じる」という内容のスピーチをします。あらゆる世代の人に手に取ってほしい作品です。



K481
（動物学）

2025年9月

13歳からの考古学
『なんで人間にはしっぽがないの？　二度の喪失の物語』

東島　沙弥佳　著　　（新泉社）

久米　火詩（ひうた）　画

「なんで人間にはしっぽがないの？」という何気ない疑問から始まるこの本は、進化や遺伝子など生命科学の世界へ読者を導いてくれます。

しかし、ただ研究の成果や答えを教えてくれるだけではありません。なぜそう言えるのかを明らかにするため、研究者たちが化石や遺伝子、実験結果をもとに仮説を立て、検証を重ねていく過程も丁寧に描かれています。身近な疑問が研究の第一歩となり、「勉強」が知識を覚えるだけでなく、謎を解く力になることがわかります。「将来やりたいことがない」「学校の勉強って役に立つの？」と感じている人におすすめです。



K330
（金融）

2025年7月

『空想金融教室　昔話でおカネの基本がわかる！』

柳田（やなぎだ）　理科雄　作　　（小学館）

みずほフィナンシャルグループ　解説・監修

旗町　マコ　絵

さるかに合戦やシンデレラなど、誰もがよく知っている昔話の登場人物たちが、金融の視点を取り入れることで、より良い結果や、主人公にも悪者にも利益となる結末にたどりつけるかもしれない方法が、たくさん収録されています。

単なる空想のお話ではなく、とっつきにくい「税金」や「ビジネス」について、わかりやすく解説されています。自分が主人公だったらこんな場面でどうするか、考えながら読み進めると楽しいです。